

表紙の説明

残雪の雌阿寒岳から雄阿寒岳 知床
そして国後

市田信行 陸自77

登山の前は、いつも山頂から展望で
きる風景を思い浮かべていました。そ
して登る時はそれを励みに、山頂では
それと実際の風景との違いに驚くこと
を楽しみにしていました。

雌阿寒岳は、北海道東部の標高約15
00mの活火山ではほぼ独立峰です。登山
の前、山頂からは地平線まで広大な北
海道の大が展望でき、そこに阿寒、
摩周、屈斜路、知床の火山群、火山湖
が点在する風景を思い浮かべていました。

登山当日、山頂に登ると、春の薄い
青空の下、ほほ思い浮かべていた風景
が広がっていました。表紙の写真はその
時に撮影したものです。すぐ目の前
は雌阿寒岳中ボンマチネシリ火口、中
央部の円錐状の山とその左の湖は雄阿
寒岳と阿寒湖、雄阿寒岳のやや左の遠
方は知床連山です。

一方、驚きもありました。北方領土
の国後です。写真には、雄阿寒岳のす
ぐ右の遠方に白く薄く写っています。
国後は雌阿寒岳から約150km離れて
おり、幾何学的には水平線の向こう側
ですが、その日はまだ冷たい海面と暖
かい春の日差しとの温度差で光が屈折す
るいわゆる蜃気楼現象で浮き上がって
見えていたのだと思います。

登山した時、国後島に想いをはせて
いましたが近よることさえ難しいとい
ろです。その国後が、その日は、蜃気
楼として見えていました。

各地点の位置

地図：国土地理院HP



表紙写真 地点の補足

